

## <ポイント版> ぎふ経済レポート（令和5年5月分）

### 【製造業】

○製造業は、3月の鉱工業生産指数は前月比7.2%上昇となった。ヒアリングでは、半導体不足の影響が和らいているとの声や、売上が徐々に回復し、今後も受注増加が期待できるなど、明るい兆しが見え始めているとの声、更には航空機関連の量産も開始しているとの声が聞かれた一方で、受注増加により売上は前年比増加したものの、価格転嫁が不十分であることや、短納期・小ロットの受注が多く、時間外労働の増加などから利益は減少しているとの声や、中国の景気減速の影響により苦境が続いているとの声が聞かれた。

### 【地場産業】

○地場産業は、3月の鉱工業生産指数は、繊維工業及び食料品で上昇した。ヒアリングでは、原材料やエネルギー価格が高騰する中、価格転嫁や契約・仕入先の変更、太陽光発電の導入など企業努力により利益は増加したとの声が聞かれた一方で、依然として価格転嫁が不十分であり、利益が減少しているとの声や、観光客の増加により売上は増加したが、毎月のように仕入先からの値上げ要望があり、対応に苦慮しているとの声が聞かれた。

### 【設備投資】

○設備投資は、4月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲14.4%となった。ヒアリングでは、県の補助金を活用し、新商品開発のための機械設備導入や社内システムのIT化を実施するとの声や、高騰しているエネルギー費用を削減するべく、冷暖房設備の入れ替えや太陽光パネルの設置を検討しているとの声が聞かれた一方で、省エネ関連の設備投資案件が出てきているが、全体の動きとしては活発とは言い難いとの声が聞かれた。

### 【個人消費】

○個人消費は、4月の販売額は、ドラッグストア、コンビニ、ホームセンター及び百貨店・スーパーで前年同月比上昇し、全体で同2.3%上昇となった。ヒアリングでは、飲食店の売上はコロナ禍前の2019年比で9割程度まで回復しているとの声が聞かれた一方で、エネルギー価格の高騰などにより収支の悪化が目立つとの声や、諸物価の高騰が消費者の購買意欲をそいでいるとの声が聞かれた。

### 【観光】

○観光は、4月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲22.8%、▲24.8%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、インバウンドの動きが好調との声が聞かれた一方で、食材を中心とした原材料やエネルギー価格が高騰し、経営を圧迫しているとの声や、人材不足が深刻化しているとの声が聞かれた。

### 【資金繰り】

○企業の資金繰りは、4月の制度融資実績は、金額は3ヶ月連続で増加した。金融機関からは、原材料やエネルギー価格の高騰により資金繰りが悪化している事業者の借り入れや借り換えが増加しているとの声や、経営難や後継者不足などにより、廃業や会社の売却という話が出てきているとの声が聞かれた。

### 【雇用】

○雇用面は、4月の有効求人倍率は1.56倍と20ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、受注増加により人手不足となっており、募集をかけているものの応募に波があるとの声や、定年延長や再雇用、非正規職員の確保等でなんとか人材を確保しているとの声の他、人手不足が生じていても、売上や利益が増加しない現状では、積極的な雇用の増加は難しいとの声も聞かれた。

### 【景気動向】

3月の景気動向指数（一致指数）は前月比2.5ポイント上昇、4月の中小企業の景況感も同1ポイント上昇となった。